

第33回札幌市自立支援協議会（令和元年11月5日開催）

意見参加シート

（原文のまま掲載しています。傍聴の方は当日の発言をご遠慮いただいているため、傍聴の方に対し、意見参加シートを配布しています。）

意見者	内容	分類
1	<p>・「身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクト」は、プロジェクト発足時、「入所施設から地域への地域移行」に絞るため、「家族と同居している状況から地域移行」は含まない、とされていたと記憶しています。仮に重複障がいPJと一緒にする場合、目的を再確認する必要がありと思います。</p> <p>・「さっぽろ障がい者プラン2018」からも、重度知的障がい者、重症心身障がい者をはじめ、全体的に地域で暮らさずにつづけるためには、という視点が見えづらいつ感じました。議論できる場合は必要だと思ひます。</p>	<p>ぶかいろうんえい 部会運営 しじぎょう 市の事業</p>
2	<p>・住まいのプロジェクトチームが、令和元年度末で終了する見込みであるが、一般の不動産等との意見交換も行われ、少しずつ理解は進んだかもしれないが、一方でグループホームはそこまで増えておらず、かつ何か起きるとすぐ「問題行動」と認識されすぐ「退去」を宣告されるケースは多い。元氣さ一ちの情報も有力とは言えない。新規事業が立ち上がったかと思えば対象者には「ある程度自立した方」とあり、該当を狭めて印象が強い。今後、このことはどのプロジェクトチームが対応するのか。</p> <p>・どこも「人材不足」があげられている。市としてこの大きい課題・問題に対してどう取り組むのか具体的にしてほしい。</p>	<p>ぶかいろうんえい 部会運営 せいどかん 制度に関する意見</p>
3	<p>・各部会やプロジェクト等で検討されている課題が札幌市の課題として認識されている感じがしない。「各部会（プロジェクト）」⇔市協議会の在り方がどのようになれば全体的問題として取り扱われていくのか、今後とも考える必要がある。もっと活発な議論の場として協議会が発展していく事を望みます。</p> <p>・準備、実施等、お疲れ様でした。今後も良い札幌市となるようどうぞよろしくお願ひ致します。</p>	<p>きょうぎかいろうんえい 協議会運営</p>